

# 城崎の伝統技術を 受け継ぎ伝える

城崎で、約280年前から受け継がれてきた伝統工芸の麦わら細工。  
この素朴で美しい工芸品を作る伝統技術を絶やさないう、後継者の育成などに  
取り組まれている方を紹介します。

かみや  
神谷

まさる  
勝さん(64歳)城崎町湯島在住



18歳の時に父親の見習いとして麦わら細工職人になった神谷さん。昭和52年に「かみや民芸店」を開店。平成元年、「城崎町指定無形文化財城崎麦わら細工工芸技術保持者」に指定を受ける

## 麦わら細工は 世界で城崎だけ

麦わら細工は、麦わらを染めて桐箱や色紙、こま、土鈴などに貼り付けた工芸品です。すべて職人の手による手作業で格調高く仕上げられ、城崎温泉を代表する民芸品となっています。

城崎麦わら細工技術者の会長を務める神谷 勝さんは、「麦わら細工のよさは、何といても見た目の美しさです。作品は見る角度により、光の加減で模様や色がさまざまな表情を見せます」と、その魅力を話します。

同会には、麦わら細工職人が3人所属し、伝統工芸の職人育成に取り組んでいます。

麦わら細工職人は、最盛期の明治から昭和前期にかけては30人ほどいましたが、現在は、3人の職人を残すのみとなりました。

## 伝統技術の継承を

同会は平成13年から後継者育成プログラムを実施し、公募により集まった希望者を対象に、基礎から作品づくりまでを指導してきました。

これまでも一般向けの講習会は開いてきましたが、このプログラムは、週3回の実技講習を終えた研修生は、なるべく後継者になってもらうという取り組みです。

これまで地元の10人が技術習得に励み、うち1人は神谷

さんの息子の俊彰さんでした。その後、研修生はさらに技術に磨きをかけ、一人前の職人に一歩ずつ近づきつつあります。

神谷さんは、「研修生は熱心に頑張っています。短期間で覚えられることは少ないのでこの先は、それぞれが努力して技術を身に付けていってほしいです」と期待を寄せています。

## 伝統工芸品に ふれてほしい

一方、同会は、麦わら細工伝承館で展示された「シーボルトコレクション」の作品の復元にも携わってきました。

シーボルトコレクションとは、江戸時代に来日したドイツ人医師シーボルトが、城崎麦わら細工をヨーロッパへ持ち帰り、その後、博物館で展示されているものをいいます。

平成16年に同会員や関係者などが、現地の博物館を訪問し、作品を調査しました。帰国後、同会が中心になって復元への研究を重ね、約8カ月間の復元作業で、作製当時の作品を忠実に復元することができました。

## 麦わら細工と 共に歩んだ半世紀

「私にとって麦わら細工は生きがいです。これまで46年間この道一筋で生きてきました。数年後には後継者育成から離れ、自分の作品づくりに打ち込もうと思っています。それは、私たち職人の存在が、新しい職人を世に出させなくなってしまうからです。次世代の職人が活躍できるように道しるべを作ることが、私の次の挑戦です」と話す神谷さん。伝統技術を絶やさないうに、新たな取組みにその目は向けられていました。



桐箱に麦わらを一枚一枚丹念に貼り付けていく神谷さん。すべて手作業のため仕上がる作品は1日に2つほど

思いやりの気持ちをいつまでも

## 中筋小学校（豊岡）

案内者 奥田 冴可さん



中筋小学校は、豊岡地域の南部に位置し、周囲には田園地帯が広がっています。校区内では農業が盛んに行われ、県下でも有数の野菜産地となっています。

中筋小学校をこの春卒業した奥田冴可さんは、スポーツが得意で、小学校のクラブではソフトボールやバスケットボールで汗を流しました。将来は看護師になり、活動的な



のどかな自然環境の中で児童たちが学習している中筋小学校

性格を生かして、みんなを元気にしてあげたいという夢を持つ奥田さんに、中筋小学校を紹介してもらいました。

私の母校・中筋小学校の特徴は、地域とのふれあいを大切に行っているところです。

中筋小学校は、豊岡聾学校と20年以上も前から、年に2回の農業体験学習を通して交流を続けています。

5月に地域の方たちに教わりながら、聾学校の児童たちと一緒に田植えとサツマイモの苗植えをします。その後、みんなで一緒に給食を食べて楽しい時間を過ごせたことが、いい思い出になっています。

10月には、いも掘りと稲刈りをして、収穫したサツマイモで焼きいも大会を行い、11月にはもちつき大会も行います。

私たちが育てた作物はともおいしく、農作業の大変さ

と達成感も味わいました。

その後、この交流会でお世話になった地域の方や高齢者の家を訪ねて、ついたもちのおすそ分けをします。

また、同月に5・6年生がコウノトリ荘を訪問して、入居者とふれあい交流を行っています。

この日のために、日ごろ練習した「うさぎ」や「ふるさと」などの曲を、私たちが演奏するリコーダーや歌に合わせてみんなで歌いました。



いも掘りは児童たちの人気行事の一つ。焼きいも大会が楽しみ

入居者の方々に喜んでいただけたことがとてもうれしく、今でも心に残っています。

地域とのふれあいを通してこの学校で学んだ、思いやりの気持ちを忘れずに、4月から新しく始まる中学校生活を充実させたいと思っています。

## 笑顔の輪

地区住民で美しいハーモニーを 『さわやかコーラス』（竹野）

竹野町南地区では、地区住民を中心に構成された「コーラスグループ」が、3月から12月まで毎月2回、南地区公民館で練習しています。平成16年から活動を続け、現在、会員数は28人です。

コーラスグループは、これまでに地元の敬老会や地域住民の集会などに出向き、その美しい歌声を披露してきました。

グループの特徴は、コーラスグループとしては珍しい男性パートがいることです。女性の優しく透き通るような歌声に、男性の太くやわらかい歌声が加わることで、一つの曲にさまざまな表情を持たせることができ、美しいハーモニーが生まれます。

一方、コーラスの難しさは、メンバー全員と合わせて歌うところですが、何度も繰り返し練習することによって、相互の連携が深まり一つの曲に仕上がっていきます。

また、練習の合間の休憩では世間話に花を咲かせ、メン



練習に励むメンバーの皆さん。美しいハーモニーが館内に響きわたる